

# 「全学オンライン授業 アンケート」の結果概要

東北大学

学務審議会

高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター（CIR）

# 調査の概要

## 学生調査

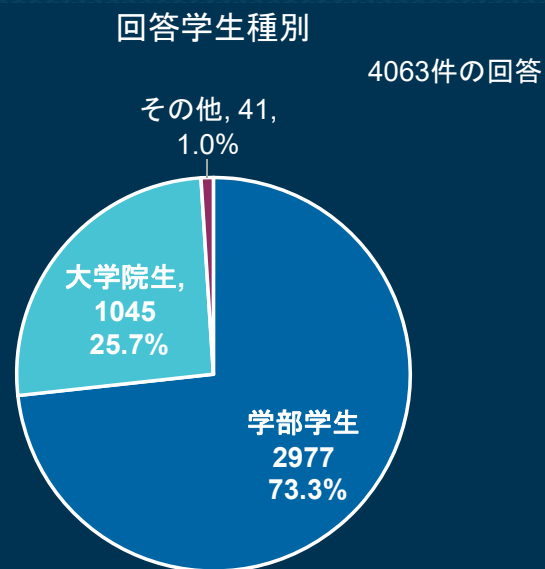
- 調査名称：「全学オンライン授業アンケート（学生向け）」
- 実施期間：2020年6月11日～25日
- 調査方法：Google Form
- 質問項目：下記21項目
  - 1-1～1-10 履修コマ数と学修時間について
  - 2～3 会話時間やストレスについて
  - 4～6 情報技術とその影響について
  - 7～8 学修の充実度について
  - 9～12 授業・運営体制に関する自由記述
- 回答総数：4,063
- 回答率：**22.4%**

## 教員調査

- 調査名称：「全学オンライン授業アンケート（教員向け）」
- 実施期間：2020年6月11日～25日
- 調査方法：Google Form
- 質問項目：下記21項目
  - 1-1～1-10 担当コマ数と投下時間について
  - 2～3 会話時間やストレスについて
  - 4～6 情報技術とその影響について
  - 7～8 教育の充実度について
  - 9～12 授業・運営体制に関する自由記述
- 回答総数：1,023（うち教員回答数：966）
- 回答率：**約30%**（推定値）

# 学生調査

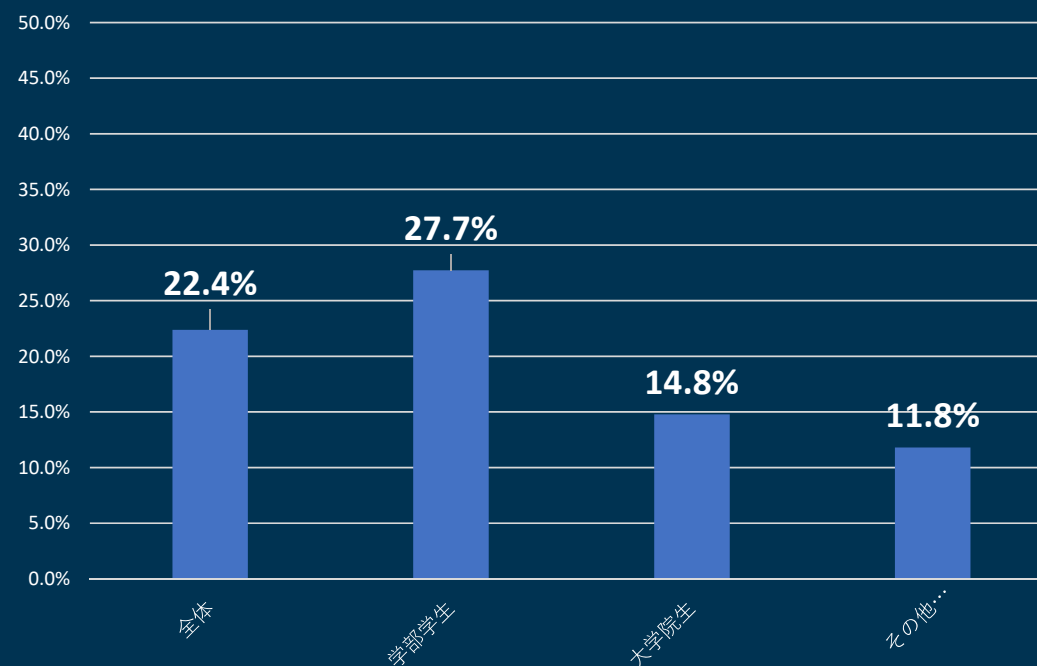
# 回答数と回答率



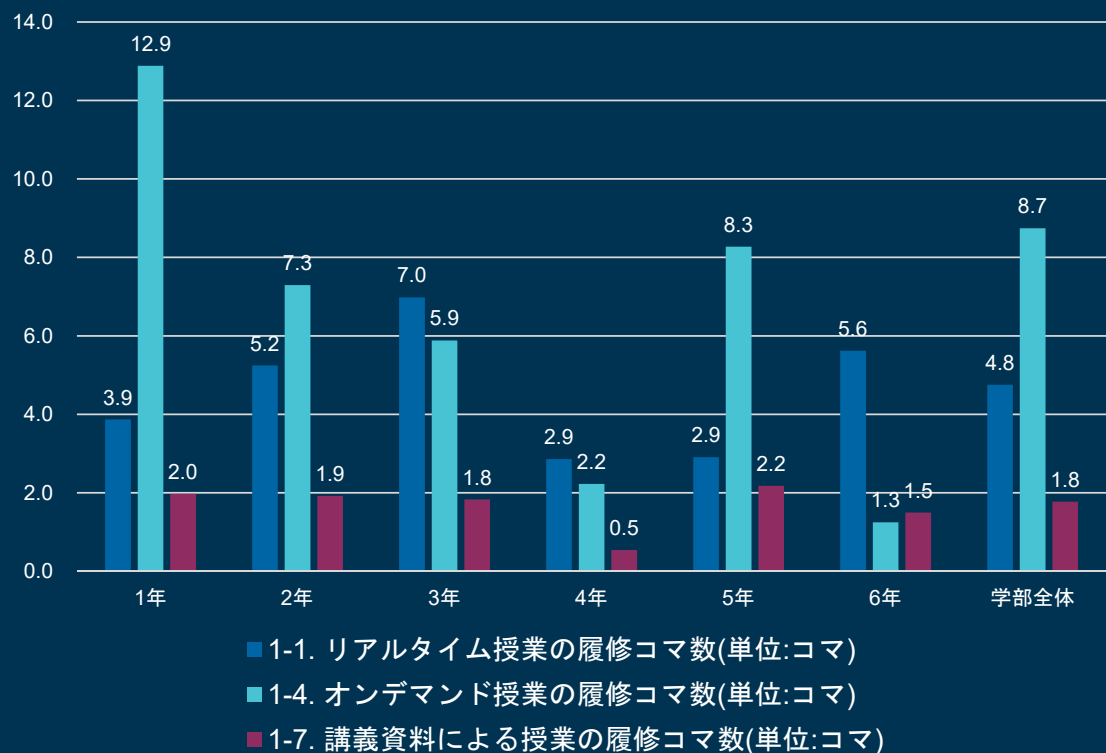
- 学部学生の回答率は27.7%
- 大学院生の回答率は14.8%
- 全体としては22.4%の回答率であった

全学オンライン授業アンケート回答率（学生向け）

4063件の回答

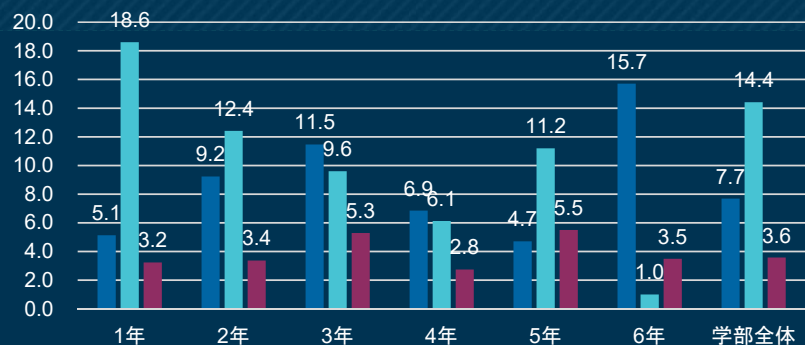


# 授業タイプ別平均履修コマ数(学部)



- 全体としてはオンデマンド型の受講が最も多い
- 2年生以降ではリアルタイム型の授業の受講も増え、オンデマンド型を上回る場合もある
- 講義資料型は学年による差は少ない

# 授業タイプ別平均授業内学修時間(学部)



- 1-2. リアルタイム授業に参加していた時間 (単位:時間)
- 1-5. オンデマンド授業の教材を視聴していた時間(単位:時間)
- 1-8. 講義資料による授業の教材を精読していた時間(単位:時間)

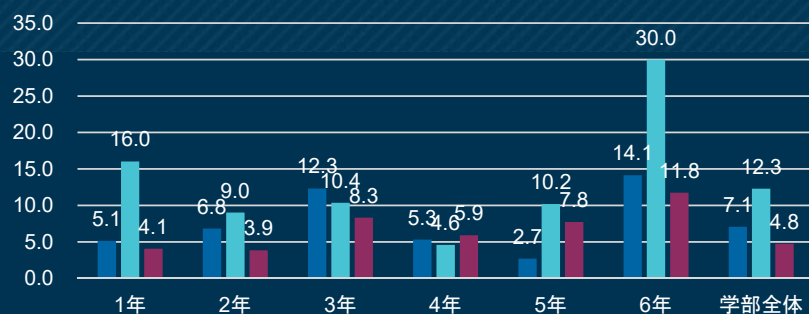
- 授業内学修時間は、全体としては、履修コマ数にほぼ比例したものとなっている
- 一コマあたりの授業内学修時間は、全体としては講義資料型が若干短い



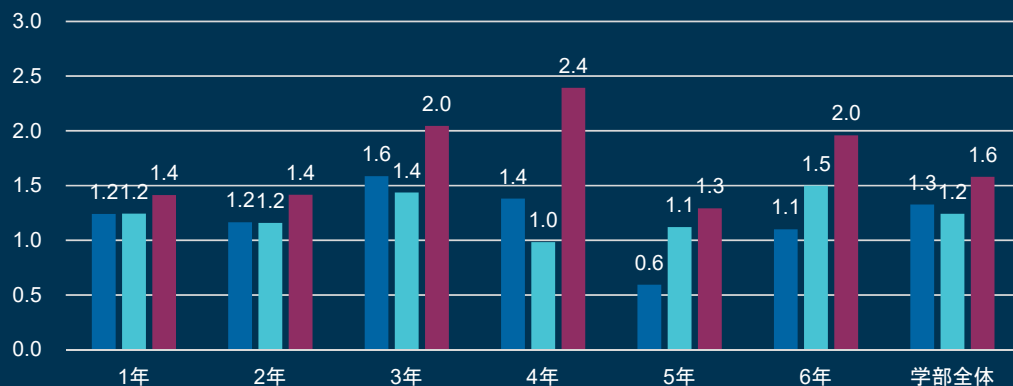
- 1-2. リアルタイム授業に参加していた一コマあたりの時間 (単位:時間)
- 1-5. オンデマンド授業の教材を視聴していた一コマあたりの時間(単位:時間)
- 1-8. 講義資料による授業の教材を精読していた一コマあたりの時間(単位:時間)

※6年生で、オンデマンド型を履修していたと回答した学生は1名だったため要注意

# 授業タイプ別平均授業外学修時間(学部)



- 1-3. リアルタイム授業の予習・復習や課題に取り組んでいた時間(単位:時間)
- 1-6. オンデマンド授業の予習・復習や課題に取り組んでいた時間(単位:時間)
- 1-9. 講義資料による授業の予習・復習や課題に取り組んでいた時間(単位:時間)

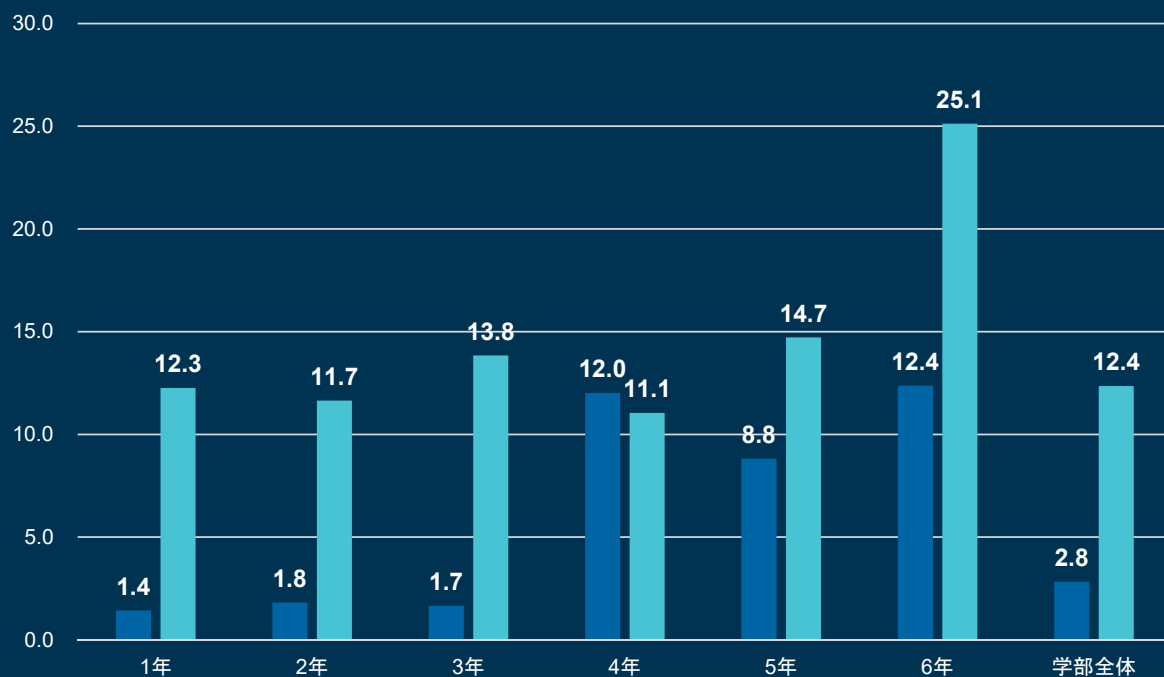


- 1-3. リアルタイム授業の予習・復習や課題に取り組んでいた一コマあたりの時間(単位:時間)
- 1-6. オンデマンド授業の予習・復習や課題に取り組んでいた一コマあたりの時間(単位:時間)
- 1-9. 講義資料による授業の予習・復習や課題に取り組んでいた一コマあたりの時間(単位:時間)

- 講義資料型の授業外学修時間は、リアルタイム型やオンデマンド型と比較すると若干長い
- 特に高学年で講義資料型を受講した場合は、授業外学習に費やす時間が長くなる傾向がある
- リアルタイム型とオンデマンド型の授業外学修時間にはあまり違いはない
- 授業外学修時間を、授業内学修時間と比較した場合、リアルタイム型とオンデマンド型は若干短く、講義資料型は若干長い

※6年生で、オンデマンド型を履修していたと回答した学生は1名だったため要注意

## その他学修時間、会話時間



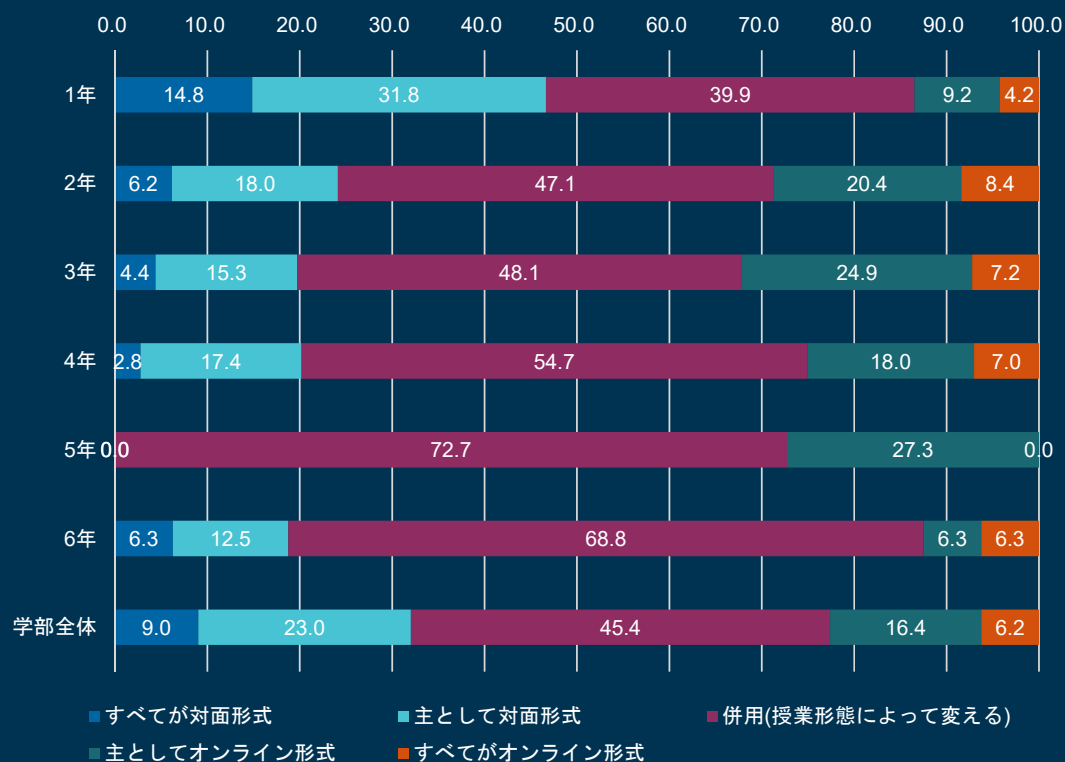
■ 1-10. その他、東北大学での学修（研究に関わる活動を含む）に費やした時間（ない場合は0と回答）（単位：時間）

■ 2. 6月1日からの1週間において対面で人（家族含む）と会話した時間（単位：時間）

- その他の学修時間（研究活動を含む）は高学年時で長くなる傾向
- 会話の時間は各学年とも一定の時間を確保できており、特定の学年が孤立しがちということはない

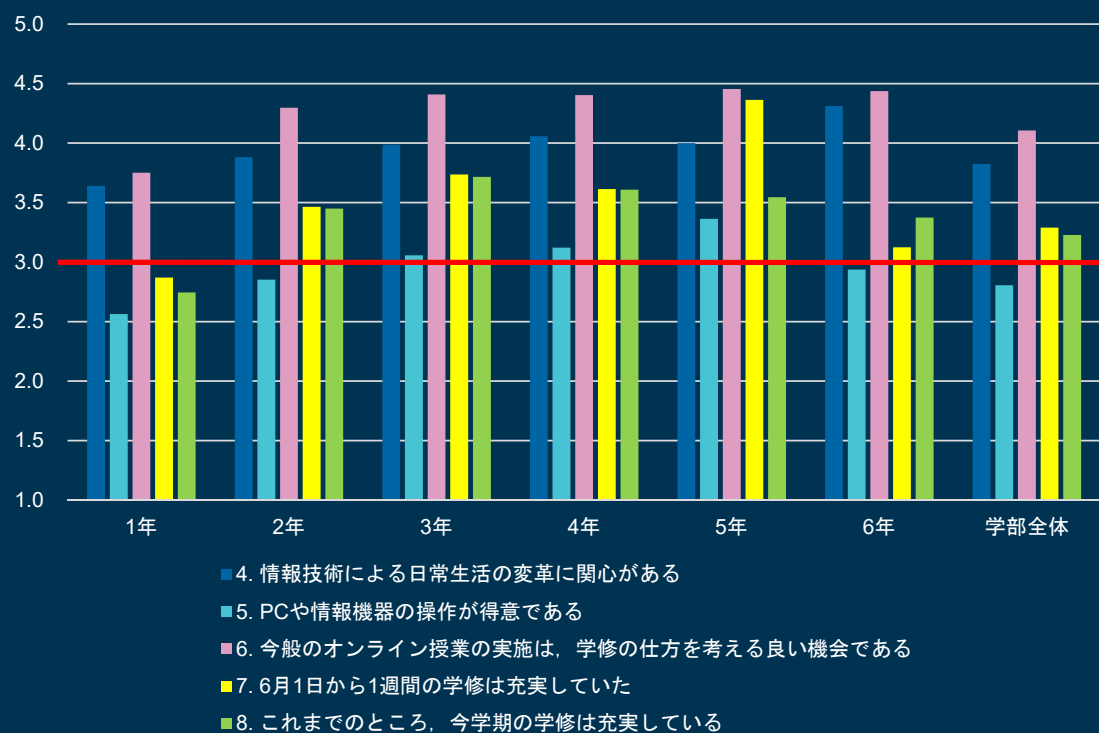


# 今後の希望—対面かオンラインか



- 全体として、オンライン化の推進には肯定的
- 1年生では対面形式の希望が相対的に多いが、一度も大学での対面型授業を経験できていない状況を考えると妥当
- 授業形態への要求のなかに、キャンパスへの通学によってもたらされるはずの様々な恩恵への要求が混ざっている可能性あり

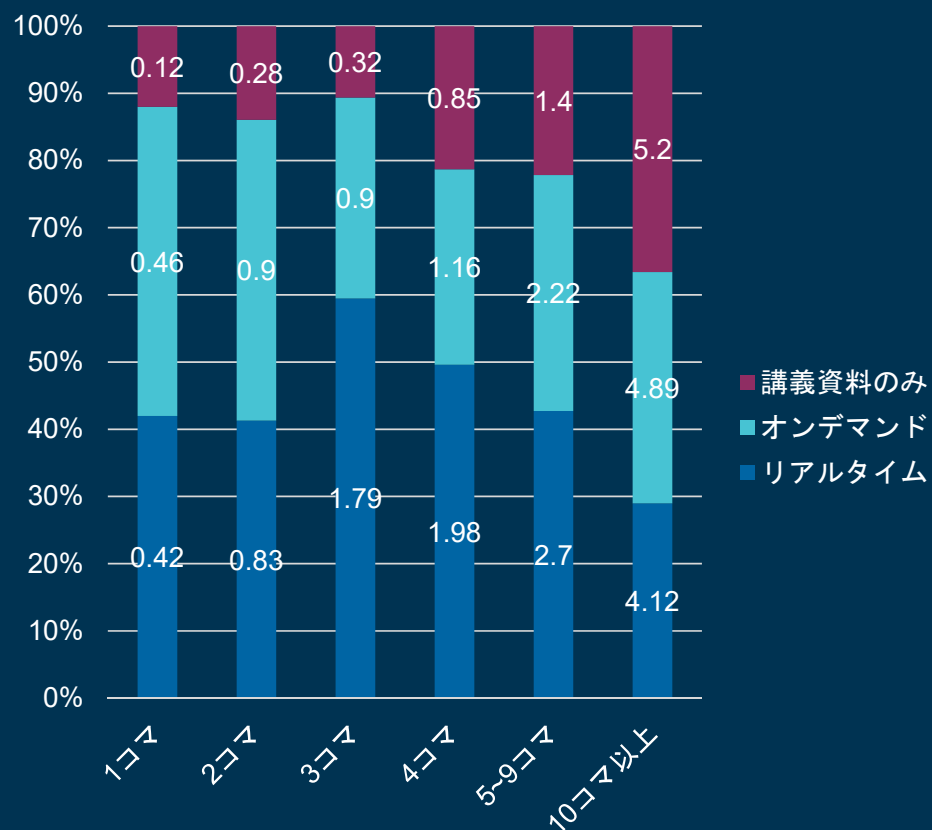
## その他の評価



- 1年生は他の学年と比べると、全般的に評価が若干低い
- PCや情報機器の操作は、全体の平均が3を下回っており、特に低学年ほど苦手意識がある可能性がある
- 学修の充実感については、1年生のみ平均が3を下回っている。横のつながりの不足が原因の可能性あり

# 教員調査

# 教育状況1：担当コマ数による授業形態の違い

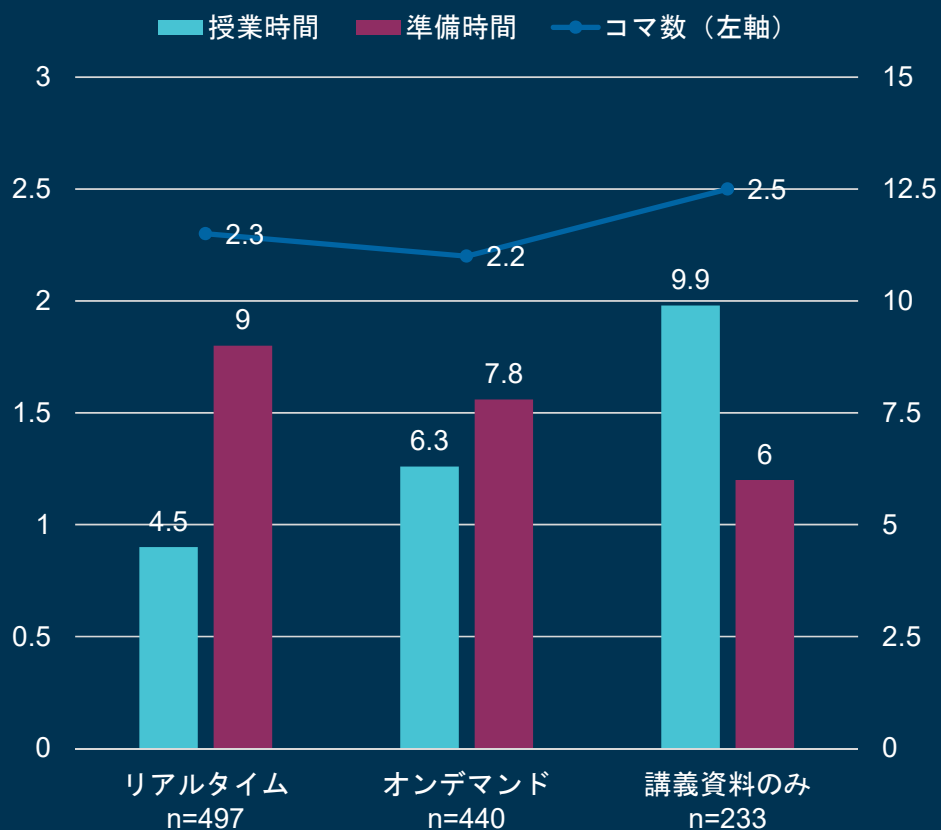


- 授業担当者：n=785, 教員の81%
- 授業担当者の平均担当コマ数：3.4
- 担当コマ数の分布は下表の通り

	1	2	3	4	5~	10~
n	211	185	107	116	130	36
%	21.8	19.2	11.1	12.0	13.5	3.7

- 1~2コマ担当者は同傾向
- 4コマ以上になると講義資料のみが増加
- 10コマ以上だとリアルタイムは3割弱

## 教育状況2：授業形態による違い

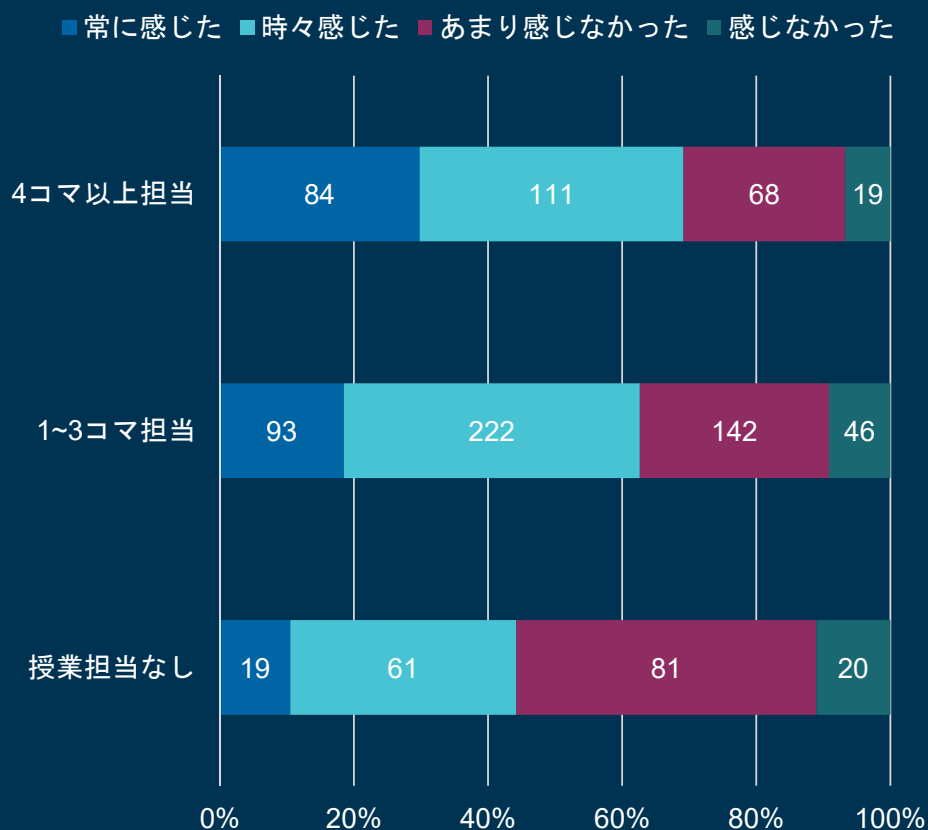


- 値は当該形態担当者の平均値
- 授業時間：オンデマンドは録画時間、講義資料のみは資料を作成する時間
- 1コマあたりの投下時間は下表の通り

	リアルタイム	オンデマンド	講義資料のみ
授業時間	2.0	2.9	4.0
準備時間	3.9	3.6	2.4
合計	5.9	6.5	6.4

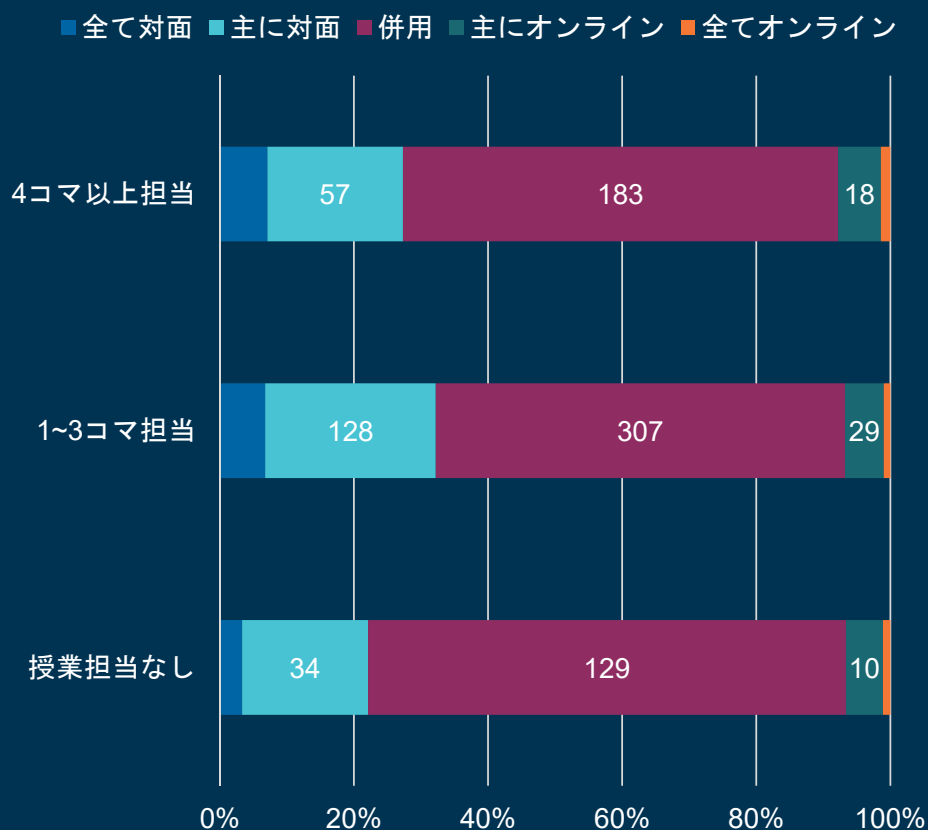
- 授業形態により投下時間のバランスは異なるが、合計時間には大差はない

# ストレス [n=966]



- 「常を感じた」+「時々感じた」の比率は、4コマ以上担当69.2%  
1~3コマ担当62.6%  
授業担当なし44.2%
- 質問文は、「6月1日からの1週間におけるストレス」であり、教育に特化して聞いているわけではないが、授業担当状況と相関あり
- ただし、合計担当コマ数とストレス間の相関は、 $r=-.173$
- 授業担当者だけに絞ると、 $r=.132$

# 今後の希望 [n=966]



- 全体の64.1%は「併用」（授業形態によって変える）を選択
- 従前がほぼ「全て対面」だったことを考慮すると、オンライン授業のメリットを感じているとも言える
- ちなみに「今般のオンライン授業の実施は、教育の仕方を考える良い機会」と言えるかを問うたところ、全体の78%が肯定的回答（5段階で4以上）
- コマ数が少ない授業担当者の方が、対面への憧憬が強い？

# 学生調査・教員調査の 自由記述から



# 学生調査の自由記述から一頻出トピックの抽出を頼りに

## 肯定的・好意的側面

- オンデマンド型による内容理解・復習の容易さ
- 移動・勉強の時間・労力節約、効率向上
- Google Classroomの使い易さ
- 早期の試行期間の設定
- 迅速なオンライン授業の整備・提供

## 不安や不満

- 課題の多さ→主体的学びを制約
- 評価方法の不明瞭さ
- 動画配信のサイト、方法、タイミング（時間割通りの配信希望）
- Wifi環境→プライバシー露見の危惧
- 目の疲労、頭痛、肩こり
- 生活（受講）のリズム→疲れやストレス
- ISTUとGoogle Classroomとの不統一

# 学生調査の自由記述から—授業の改善に向けて

## 学生の声を反映させたオンライン授業の改善ポイント

- 教育オンライン化は、同時に学生の履修コマ数の適正化を組み合わせることで、授業外学習を促して単位の実質化を進める機会となり得る。
- リアルタイム型では、適度に休憩を入れる、録画で見直せるようにする等、学生の疲労、学習利便性、自律的学習の促進に配慮が必要。
- 学生の自律的・主体的学びや復習を促すために、リアルタイム型では授業PPTや資料の提供、オンデマンド型では早めの動画配信、講義資料型では丁寧な説明を心掛ける。
- ISTUについては、倍速視聴ができない、音声小さい、黒板の文字が見えにくい、録画が翌日配信になってしまうといった声が共通して聞かれる。
- 学生が質問等をしやすい環境やルートを意識的に準備する。

# 教員調査の自由記述から一頻出トピックの抽出を頼りに

## 肯定的・好意的側面

- 東北大学における授業オンライン化、学生支援に関する決断と対応の迅速さ
- オンライン授業実施に対する丁寧なサポートや情報提供（ETA活用を含む）
- ISTUの整備・機能、G Suite契約の先見性、Google Classroomの使い易さ
- オンデマンド型授業の効率性、教育効果
- Form等による学生の意見収集の容易さ

## 不安や不満

- オンライン授業の教育効果に対する疑念（PBL、グループワーク、実習等の難しさ）
- 学生の反応把握の難しさ、伝わらなさ
- 試験の実施方法や成績評価の方法
- 複数のプラットフォームの連携不足、ユーザーフレンドリーでないこと
- オンライン化に際してのサポート不足
- Google Classroomの使い難さ
- 授業GP（好事例）共有への期待
- 10月以降の授業方法

# 教員調査の自由記述から—教育研究の改善に向けて

## 授業オンライン化やその運営に対する教員の期待・提案

- コロナ終息後、平常時においても教育オンライン化を推進していくことへの期待。
- 各教員の裁量や工夫の余地が与えられたことで、部局の事情に沿った取組が可能になった。
- オンライン授業に用いる多様なプラットフォームの整備と相互連携を進め、教員や部局のニーズに沿った授業展開を可能に。（一部に、プラットフォームの統一を求める声もある）
- 教育オンライン化による学生への教育効果の把握が必要。
- 教育オンライン化が教育活動の効率化や研究活動等の時間確保をもたらすことへの期待。
- オンライン化された授業コンテンツが東北大学の資産として活用できるように。特にオンデマンド型は繰り返し使用できることで効率性、学習効果の向上に期待。
- オンライン化に伴うコンテンツ流用の危惧、著作権処理を徹底する必要。

## まとめ

- **教育オンライン化に対する評価：**

- 本学の教育オンライン化に関する迅速な決断に対する評価が高く、実際の準備・運営やサポートの担当者に対する感謝の声が聞かれる。

- **オンライン授業の利点と課題：**

- 「オンデマンド型」や「リアルタイム型の録画提供」は、学生の学習利便性を高め、自律的・主体的学び、復習を促す可能性がある。
- 単位の実質化の観点から、履修コマ数を適正化し、課題をこなす時間的余裕を確保させることが必要。
- オンライン授業のみの場合、学生・教員共に疲労感があることに留意。

- **今後の授業形態：**

- 多くの学生・教員が、今後の授業形態として「対面・オンライン併用」を希望。

- **教育オンライン化への期待：**

- アフターコロナ時代の新たな大学教育を見据え、「オンライン授業」の積極的活用・展開への期待が高い。